



教育

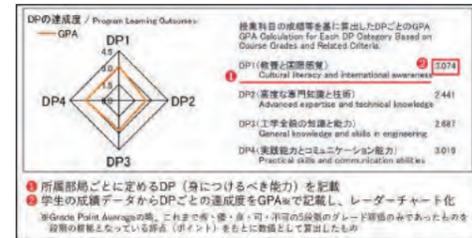
地域に貢献し、未来を開拓する高度専門人材育成

客観的評価に基づく学修成果の可視化 ディプロマ・サプリメント

■学生自身の振り返りと社会に対する学位の透明性を担保

将来予測が困難で不確実な要素が多いこの時代において、教育・研究・社会貢献など国立大学が社会に果たす役割は重要性を増しています。中でも学生への期待は特に大きく、社会からは即戦力となることが求められています。以前のように、「〇〇大学の△△学部出身」ということではなく、大学において「何を学び、どんな能力を身につけたか」が重要視されるようになったため、大学には体系的で組織的な教育を展開し、その透明性や成果を示していくことが必要とされています。大学を取り巻くこうした環境の変化に対応するため、本学では学生自身が学修成果を実感できるよう、2023年度から卒業・修了生を対象に『ディプロマ・サプリメント』を発行しています。大学には、卒業・修了までにどのような能力を身につける必要があるかを示す方針であるディプロマ・ポリシー (DP) を定める義務があり、これは学修成果の目標ともなるものです。このDPの達成度を、氏名・成績

などの客観的なデータからレーダーチャートなどで可視化した個別の証書が『ディプロマ・サプリメント』です。学生目線では、大学で学んだことを振り返り、身につけた能力を活かして社会に貢献していくための指標となり、社会目線では、学生個人がどのようなことができるのかを計る指標となります。



ディプロマ・サプリメント (サンプルより一部抜粋)

教育学部は創基150周年!

教員養成

■教員養成の歴史とこれから

2025年に静岡大学教育学部は創基150周年を迎えました。教員のなり手不足が課題となっている中、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。生まれた時からソーシャルメディアの中で育ち、価値観も多様化しています。また、日本語指導が必要な子どもや心身の健康に課題を持つ子どもの増加など、グローバル化やインクルーシブ社会の進展により、教員に求められる能力は多様化・複雑化しています。本学部は2016年度に学校教育教員養成課程に特化した学部へ改組し、総合的な知識と教員としての資質を兼ね備えた質の高い教員を、静岡県をはじめ全国の小学

校、中学校、高校、特別支援学校などの学校現場へ毎年およそ150人輩出してきました。また、附属の幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校は、地域に根差した教育施設であるとともに、教育実習生の受け入れも担う教員養成の場としても在り続けています。150年の伝統を糧に、教員へ求めるニーズが多様化する現代においても、柔軟に適応し対応していける教員の養成に取り組むことで、教育現場や地域、社会に還元していきます。



静岡大学教育学部
創基150周年ロゴマーク

他者と協働し、知をつなぐ方法を実践的に身につける コラボラティブ・ワークス

■「共創型人材」の育成に向けて

グローバル共創科学部では、社会的課題への取り組み方を学ぶ授業として「コラボラティブ・ワークス」を設けています。本科目は、現場での共創を通じて、社会課題に取り組むうえで必要とされるプロセスを学び、学生が持続可能な未来づくりの担い手(共創型人材)になるための力を養うことを目的としています。学生は実際に課題が生まれる現場に出て、専門的知識をもつ人々や現場の関係者と社会課題解決のために協働する経験を積みます。各ワークに設定されているテーマは福祉や環境、スポーツなどさまざま、協働する関係者も自治体や企業、地域住民など多岐にわたります。実施方法

も企業との共同研究やフィールドワーク、まちづくりなどワークに適した方法で行います。体験的、段階的に社会的課題への取り組み方を学び、共創による教育研究を試行し、そこで得た成果をステークホルダーに還元しています。



まちづくりと融合した地域福祉を考える (ワーク事例)

沼津市大平地区は高齢化が深刻であり、単身世帯が多く商業施設もほとんどない地域です。本ワークではこの大平地区を中心に、まずは地域住民や沼津市社会福祉協議会、学校関係者からヒアリングを行い、古民家を拠点にしてどのような居場所づくりができるか試んでいます。実際に古民家でイベントを企画し、地域の高齢者や子ども達と定期的に交流をしています。児童養護施設の生徒たちと交流する機会もあり、今後もさまざまな仕掛けをつくっていきます。



地域住民との交流を楽しむ学生たち

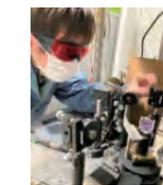
浜松医科大学との共同設置による博士課程 光医学共同専攻

■光・電子工学と光医学を融合した最先端の人材育成と研究分野

先進医療において医療機器が果たす割合は世界的に増大し、我が国でも新たな医療機器の需要が高まっています。中でも、超早期診断、予防医療、低侵襲診断・治療などの医療応用分野には、光に対する非常に多くのニーズがあります。そのようなニーズに基づいて高度な技術や新たな価値を生み出し、世界の医療に貢献できる革新的な医療機器の開発や実用化を促進するためには、光・電子工学と光医学を融合させた「光医学」分野の高度専門人材が求められます。そのような光医学人材を育成するため、静岡大学と浜松医科大学は、それぞれが持つ光・電子工学と光医学の優れた教育研究実績・環境を連携させた共同教育課程(博士課程)、「光医学共同専攻」を2018年に設置しました。また本専攻は、「浜松光宣言2013」において人材育成を具現化するための組織としても位置づけられています。本専攻では、静岡大学の先進的イメージングテクノロジーなどと、浜松医科大学の他には例のない光の医学応用を融合させた研究が、工学系・医学系の大学研究者、企業研究者との人的交流のもとで進められています。本専攻で博士(光医学)を取得した卒業生は、光関連企業、病院、医療関連の公的機関などで活躍しています。

「浜松光宣言2013」と 「光の先端都市HAMAMATSU」

静岡大学、浜松医科大学、光産業創成大学院大学、浜松ホトニクス株式会社の4機関は、浜松を「光の先端都市HAMAMATSU」として、世界の光科学・光産業の中心地とすることを目的とし、2013年に「浜松光宣言2013」に調印しました。2023年には新たな技術の社会実装、地域振興、教育、文化などの視点を取り入れた具体的な重点項目を挙げた「浜松光宣言2023」として再度調印し、浜松を世界へと発信していきます。



テラヘルツレーザー
光源の開発



近赤外光を用いた
光音響イメージング実験用装置の開発

